



「伝えるための動画制作」に挑戦しよう



はじめに

動画をスマホで撮って見せ合うのは日常の風景です。小学生も家庭で行っていることでしょう。誰にでもできることを、あえて扱ったところに本番組の意図があります。

従来、ビデオ撮影といえば、記録のための主であり、何十分も撮影していくイメージでした。それが最近では、ビデオ撮影と言うより動画制作と言うことが多くなり、動画といえば短い時間で表現したり伝えたりするための媒体を表す言葉になってきました。YouTubeなど、動画を発表する場も多くありますし、「YouTuberなどのネット配信者」は2020年の学研教育総合研究所の小学生白書によれば将来就きたい職業の第4位です。

動画は、これまでの「しまった!」の番組でいえば、「伝えるプレゼンテーションを作る」や「伝える新聞を作る」に位置づけとしては近いといえるでしょう。今回は調べたものを、プレゼンテーションや新聞で伝えるのではなく、動画で伝えるイメージです。したがって、両者に例えて考えれば、情報を調べたりする前段階も重要であると理解できます。改めて「しまった!」の「インタビュー」などの他の回もフル活用しましょう。もちろん、動画制作そのものにも難しさがあり、ここに動画固有の技が必要となりますので、それは本番組で学びます。



学習過程を意識する

本来、動画制作は気楽なものです。なので、簡単に撮影して伝え合うことも可能ですし、ここから始めるのが基本です。しかし、こういった動画制作の体験は、既に家庭等で行っていることも多くありますので、番組ではより学習を意識した場面を取り上げています。

つまり、本番組のコンセプトである「調べる」→「まとめる」→「伝える」の学習過程を意識して動画を制作していきます。実際の学習では、こうした学習過程に入る前の「課題の設定」も重要になります。

1. 「課題の設定」の段階では、**誰に、何を伝えるための動画**なのかを決めることが重要になります。番組では、「1年生に」「上手なそうじのしかたを説明する」が課題として設定されました。
2. 「調べる」段階では、課題を意識し、**何を、どう撮影するか**が重要になります。番組では、何を撮影するかの観点から「動画のねらいをしぼる」「動画の目的にあった情報を集める」ことが示され、付箋紙を使って動画の目的にあった情報とは何かを検討したり、視聴する1年生や、掃除の指導に詳しい先生にインタビューをして焦点化したりしていく方法が例示されています。どう撮影するかの観点から「見る人が分かるように工夫する」ことが示され、ちりとりを撮影するカメラアングルや、ぞうきんを撮影する際の背景の工夫といったことが例示されています。

3. 「まとめる」段階は、動画制作では編集作業になります。まずは、必要な情報だけを選び、伝えたい順に、映像を切り貼りすることになります。「課題の設定」から思い描いてきたイメージを具体的に実現する段階といえるでしょう。

プレゼンテーション同様に、最も大事なことは、伝える順序です。「易→難」「過去→未来」など、視聴者が受けとめやすい順序でまとめましょう。

その上で、それらを強調する作業を行います。「調べる」段階で、どう撮影するかを検討した結果を、さらに映像として強調することになります。ズームしたり文字や印を入れたりして「大事なところを目立たせる」こと、録音して「声で説明を加える」ことなどが番組で例示されています。

子どもは映像の強調や加工が好きですが、まずは伝える順序が大事であることをしっかりと指導しましょう。

4. 「伝える」段階では、教室で発表会形式で披露し合うのもいいかもしれませんが、クラス全体や保護者などに制作した動画を共有して、コメントをいただくのも良いでしょう。



おわりに

NHKスクープBOXをご存じでしょうか？ 視聴者から投稿された静止画や動画がニュースなどで放送される仕組みです。このホームページを見ると、視聴者から投稿された動画がそのまま放送されていないことが分かります。ズームしたり、文字を入れたり、様々な表現上の工夫が見られます。ちょっとした工夫に見えることがプロの技であり、視聴者の理解に大きな影響を及ぼしていることが分かります。このように映像のプロの技は至る所で学ぶことができます。

コロナ禍によって、教員研修や授業研究も動画で行われることが増えてきています。またGIGAスクール構想によって全ての子どもがPCを持つ時代にあっては、先生方も学習動画を制作する機会が増えていくことでしょう。我々自身も、分かりやすい動画制作が求められる時代となっています。番組が、子ども自身の学習のみならず、先生方の動画制作の一助になればとも願っています。